

岩手医科大学歯学会第51回例会抄録

日時：平成13年2月24日（土）午後1時

場所：岩手医科大学歯学部第四講義室（C棟6階）

特別講演

多数死体の検屍並びに身元確認について

今井 康雄

岩手県歯科医師会常務理事
岩手検案医会理事

群馬県の御巢鷹山に日航機が墜落して15年目を迎えたが、この事故を契機に歯科の所見による身元確認の重要性が認識され、歯科医師会と警察との連携が全国的規模で進められることになった。

当県においても昭和63年4月に県歯科医師会内に警察歯科委員会を設置し、社会の要請を認識しながら警察行政への協力体制を整えてきた。現在は、一般身元不明の個人識別が主ではあるが、高速時代を迎えた当県でも、高速道路、空港、新幹線等あるいは火山噴火による大規模事故・災害等が懸念される。

岩手県歯科医師会会員は、関係機関の協力を得ながら、社会の要請に応えられるように努力を続けている。そこで、現状について実施要領に従い、出動体制、総括対策本部の任務、現地対策本部の任務、及び、身元不明死体の身元確認までの流れ、すなわち、1) 遺体および歯科領域の組織の回収、2) 遺体の復元と歯科の検査、3) 歯からの個人識別情報の収集、4) 歯科の検査報告書の作成、5) 手配書の作成、6) 手配書の配布、7) 該当者の生前の歯科記録の収集、8) 生前の歯科記録の転写、9) 生前と死後の歯科記録の比較、10) 歯科の個人識別に関する報告書の作成、などについて比較的特異な事例を挙げ、講演した。

一般演題

演題1. マウス口唇表皮、舌および口蓋粘膜上皮のジチオスライトール剥離

○大澤 得二、馮 新顔、野坂洋一郎

岩手医科大学歯学部口腔解剖学第一講座

基底膜の lamina densa 直下に、lamina fibroreticularis が疎な層として TEM で観察されるが、SEM による立体的な観察は少ない。表皮あるいは粘膜上皮と共に、基底膜を真皮あるいは粘膜固有層より剥離し、lamina fibroreticularis を SEM により立体的に観察することを試みた。3日齢マウスより、舌、口蓋、下唇を摘出し、0.01M ジチオスライトール-PBS で1時間処理した後、ピンセットで機械的に表皮および粘膜上皮を剥離した。剥離部分、残部の全てを固定、脱水後、2-メチル-2-ブロパノールに置換し、Eiko ID-2 で凍結乾燥した。試料はカーボン両面テープで試料台にマウントし、日本レーザー電子 MW-PC30 オスミウム・プラズマ・コーターでオスミウム・コーティングを施して、日立 S-4700 走査型電子顕微鏡で観察した。剥離した表皮及び粘膜上皮下面では、基底膜の網状構造が観察され、真皮及び粘膜固有層側では、密なコラーゲン層の上に、疎な網状のコラーゲン線維が観察された。このコラーゲン線維は太い線維束を形成せず、1-数本の細い束で走行していた。また直進性が乏しく、蛇行していた。本研究のジチオスライトール剥離法により、lamina fibroreticularis を構成しているコラーゲン線維の立体的な観察が可能となった。今回の SEM 観察はこれまでの TEM 観察との一致を示した。

同時に TEM によりジチオスライトール処理の効果を観察することができた。機械的な剥離を行なう以前に、すでに lamina fibroreticularis の結合組織は極めて疎になっており、剥離を容易にしていることが理解できた。